

令和7年度 仙台市発達障害者支援地域協議会	
令和7年10月27日	資料2

令和7年度仙台市発達障害者支援地域協議会作業部会の概要について（中間報告）

1 テーマ 「地域と共に進める発達支援」

2 委員について 上記テーマに応じ、会長が指名する協議会委員及び臨時委員を下記の通り選任。

No		名前	ふりがな	所属	役職・立場
1	部会長	佐々木 健太郎★	ささき けんたろう	尚綱学院大学 教育部門 心理教育学群 学校教育学類	准教授
2	副部会長	西田 有吾	にしだ ゆうご	NPO法人自閉症ピアリンクセンターここねっと 仙台市自閉症児者相談センター	主任相談員
3		大友 まゆみ★	おおとも まゆみ	学校法人聖和学園 聖和幼稚園	園長
4		岡崎 愛	おかざき あい	NPO法人アスイク	フリースペース ユニットリーダー
5		加藤 緑	かとう みどり	ウェルビー株式会社 ハッピー仙台教室	教室長
6		川嶋 賢治	かわしま けんじ	元 株式会社LITALICO ライフ事業部コンサルティング部	社会福祉士
7		佐藤 智美★	さとう ともみ	社会福祉法人なのはな会 仙台市なかよし学園・仙台市あおぞらホーム	施設長
8		佐藤 陽子★	さとう ようこ	仙台市立鶴谷小学校	校長
9		柴崎 由美子	しばさき ゆみこ	NPO法人 エイブル・アート・ジャパン	代表理事
10		田中 由香★	たなか ゆか		保護者
11		米倉 尚美★	よねくら なおみ	社会福祉法人みずきの郷	理事長

★の委員は協議会委員

3 議論の経過と要点

【第1回】（令和7年2月3日開催）

- ・障害福祉サービスの拡充により、支援対象や関係者が増加した。本人が地域の身近な場で過ごすことを目指し、地域で理解し支える体制の整備が課題となっている。作業部会では将来を見据えて本人支援・保護者支援で大切にすることは何かについて、全ライフステージの視点から、3年をかけて議論を進めることとした。
- ・委員から実践の中で大切にしている事、現状や課題をご報告いただいた。ライフステージごとに整理したものが資料2-1である。

【第2回】（令和7年7月1日開催）

- ・第1回作業部会で挙げられた現状や課題を共有し、将来を見据えた支援の在り方について、「時代とともに変えていくこと」「これからも大切にしていきたいこと」の2つの観点から、「本人支援」と「保護者支援」それぞれについて、2グループに分かれ、グループワーク形式での意見交換を行った。グループワークで各委員から出た意見を整理した内容を以下に示す（資料2-2参照）。

◎これからも大切にしていきたいこと

- ・本人支援でこれからも大切にしていきたいこととして「好きなことで集まれる場、自分のことを安心して話せる人・場」「自分らしさを認める存在・本人の立場で考えてくれる存在」「発信し、相談して他者と一緒に問題を解決する経験が自立につながる」「得意・好きを育む支援」があげられた。
- ・保護支援でこれからも大切にしていきたいこととして「保護者が葛藤や気持ちを話し合える場」「悩みなながらも子どもと向き合い歩んできた先輩保護者との出会い」「保護者の気持ちや願いを

支える支援」「保護者の課題に合わせた支援」があげられた。

◎現状の課題

- ・ 本人支援における課題としては「実体験や生活経験の不足」「サービスが手厚くなった一方で、地域とのつながりが薄くなっている」「ICT は欠かせないが、使い方の支援が慎重になりがちである。SNS を使いこなすまでに時間がかかる」「仲間同士をつなぐ役割や場がない」などである。
- ・ 保護者支援における課題としては「子育てそのものの戸惑い」「保護者がこどもと過ごす時間が限られ、サービス充実が支えになる一方、家庭で向き合うべきことと外部支援に任せることとの境界が見えにくくなり、支援に頼ることが増えている」「子育ての不安から、こどもの自立を妨げるような先回りをする場合がある」「情報は得られるが、こどもに本当に必要な事を見極めにくい」などがあげられた。

◎これから取り組んで行くこと（時代と共に変えていくこと）

- ・ 本人支援でこれから取り組んで行くこと（時代とともに変えていくこと）としては、「実体験の支援」「ICT の使い方を学べる環境。使い方を伴走してくれる支援や同世代の仲間からの学び」「幼児期など、より早期からの楽しむこと・好きを育む支援」「同世代をつなぐ役割、仲間との関係性を育む場づくり」「障害のある人もない人も一緒に活動できる地域の場合」「早期から本人主体で支援を整理してくれる役割」などがあげられた。
- ・ 保護者支援でこれから取り組んで行くこと（時代と共に変えていくこと）としては、「子育ての支援・保護者の試行錯誤の伴走的なサポート」「情報だけでなく、本人の立場に立ち将来を見据えて今必要な事を保護者と一緒に考える支援」「ICT も含めた、こどもの好きに保護者が寄り添うための支援」「保護者が自由に参加できる柔軟なコミュニティ」などがあげられた。
- ・ 本人支援・保護者支援に共通するキーワードとして、「実体験」「情報の取捨選択」「楽しむ」「つながり」が浮かび上がった。

【委員同士の実践見学・先進地視察】（令和7年9月～）

- ・ 委員同士が互いの実践を知ること、ライフステージを超えて共通する支援の軸を明確にすることを目的に、取り組みの見学会を実施している。得られた気づきや学びを共有する場として、今後情報交換会を実施予定。
- ・ 令和7年12月以降に先進地視察を予定。

4 今後のスケジュール等について

今後、作業部会を3回程度実施し、最終報告へのまとめを行う予定。